

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1190200400		
法人名	株式会社 トゥルーケア		
事業所名	グループホーム さつき		
所在地	埼玉県川口市東内野334-1		
自己評価作成日	平成23年11月1日	評価結果市町村受理日	平成23年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成23年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様一人ひとりに合わせた役割を持ち、その人らしく自然な姿で生活リハビリを続ける事ができるよう支援しています。 ・緑豊かな明るい環境の中で天気の良い日は、庭で食事会やお茶会を行うなどし、食事の大切さを理解すると共に楽しく食事ができるよう工夫しています。 ・ボランティアの方の訪問が多く、利用者様も活気があり笑顔が多いホームです。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者がその人らしく、健康で明るい笑顔でいつまでも元気に過ごせるよう、ラジオ体操や屈伸・歩行訓練、算盤や脳トレ、習字、貼り絵等、生活の中で体力や能力の低下防止に積極的に努められている。又、町会の文化祭やバザー、清掃活動に防犯パトロール、子供会の資源回収ほか、納涼祭等には近隣住民を招いたり、民謡やウクレレ、アニマルセラピー、日本の歌を唄う会等、多くのボランティアとの交流等、地域との交流を活発に取り組みされ、利用者が地域と繋がりがりながら暮らせるよう支援されている。 ・平成22年度の目標達成計画については、10月に地域住民3名の参加を得て防災訓練を実施し、目標計画を達成されている。又、震災時の教訓を活かし、事業所の3階建て部分から大声を出しても、災害発生のお知らせが届かず警笛に変更されたり、避難場所や職員の役割分担を再検討される等、更なる取り組みが行われている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目の届く場所に提示されており、各職員は意識の向上に努め利用者がその人らしく元気に過ごしていただけるよう心掛けている。	事業所独自の理念が創られ、管理者と職員はその理念を共有し、利用者がその人らしく、健康で明るい笑顔で過ごせるよう生活リハビリテーションを意図とし、体操やそろばん、習字や貼り絵、又、レクリエーションなどの時間を楽しみながら体力や能力の低下防止に努めるなど、実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会に加入し、散歩を兼ね近隣のパトロールやダンボール等の回収・町会文化祭への参加・地域のボランティア様を迎えてのレクリエーション等交流している。	町内会に加入し、文化祭やバザー、清掃活動や防犯パトロールに参加し、子供の資源回収にも協力されている。その他、事業所の納涼祭など催事には近隣住民を招くほか、民謡やアニマルセラピー、コーラスなどの各種ボランティアとの交流など、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう基盤づくりに取り組まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方やボランティア等で来設される方には、認知症について理解が得られるよう話しはしているが、地域貢献には至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表者やご家族様とよりよい関係を目指し充実した話し合いを行い、サービス向上に活かしている。	お花見会や敬老会など同日開催として開かれ、事業所からの報告のほか、参加者からも意見・提案が行なわれ、事業所運営に活かされている。災害対策や外部評価結果と課題解決への取り組みなどについての話し合いが持たれ、サービス向上に活かされている。	会議内容は目的に沿ったものになっているものの、会議開催回数は諸般の事情で未達成となっており、省令基準(2ヶ月に1回以上)の達成に向けた取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者と日頃より報告・連絡・相談を行っており事業所の実情や取り組み等を伝えている。	運営推進会議には市担当者の参加をいただくほか、通常の報告・相談・連絡の機会及び地域グループホーム連絡会議等でコミュニケーションを図り、良好な協力関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については正しく理解している。2Fフロアの施錠は行っていないが、外出要望がある利用者の安全確保の為、玄関、1・3Fフロア出入口の施錠はやむを得ない。	管理者及び全ての職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し、身体拘束をしないケアに取り組まれている。又、言葉での拘束についても会議で話し合われ実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連の勉強会に参加し、職員会議等で話し合い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について勉強会に参加し、必要性を関係者と話し合い活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明を十分に行い理解・納得を図っている。不安・疑問点はその都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望の窓口を設置している。他、家族会や面会時等に意見・要望を聴いている。利用者からは日々の関わりの中から要望等を聴き、職員間で話し合い、運営に反映している。	利用者については、日頃の関わりの中で、家族とは運営推進会議や家族会で意見・要望を聴き取られるほか、事業所便り送付の定期連絡時にも聴き取られている。その意見や要望については職員間で話し合い、運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見・提案は、管理者が職員会議での話し合いや個別面談で聴きサービス向上に努めている。	全体会議や個別面談及び本部からの職員アンケートなどで意見・提案を聴きとられている。又、言いやすい環境がつけられ、活発に意見・提案が行なわれ、個別ケアほか、そろばんや脳トレの導入や食事の改善提案などサービス向上に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況等は、管理者より報告し職場の環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画をもとに職員個々の力量に応じ、会社内外の研修参加を推進している。又、OJTも進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列のグループホームと月に1回交流勉強会を開催し、事例検討会及び意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	声かけや関わりを多くし、本人が困っている事不安な事要望等一つ一つ誠実に対応し職員間で共有しながら安心して生活できるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせ・見学の段階から、家族等が困っている事不安な事要望等傾聴しながら、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族等との面談及び情報収集した内容をもとに、その時必要としている事を中心に総合的に支援できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員がすべて行うのではなく、できない部分を職員と一緒にやる事で、共同生活をする中での信頼関係を築き、利用者の自立支援に努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や定期的に日頃の生活の様子を手紙にし家族に伝え共有しながら支えている。行事参加や外来受診時等、共に本人を支えて行く関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人が会いに来たり、手紙のやり取りを行っているほか、家族の協力を得て馴染みの美容室へ出掛けるなど関係継続支援に努めているが、入居前に関係が途切れてしまっている事があり困難な場合もある。	近所の方が会いに来たり、知人・友人との電話取り次ぎ、馴染みの美容室へ出かけるほか、家族の協力を得てのお墓参りや法事、盆の帰省など関係継続支援の取り組みが行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、フロアでの席の配慮やユニット移動を行い、孤立やトラブルにならないようその都度配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、家族より相談があった際は、誠意を持ち支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者・家族から生活歴等の情報を得、参考にしながら、一人ひとりが心地よく暮らす事ができるよう希望・意向の把握に努めている。又、困難な場合は日頃の関わりの中で表情・仕草等から汲みとるよう努めている。	思いや意向の把握が難しい利用者については、日頃の関わりの中で顔色・表情や仕草などから汲みとるよう努めている。又、生活歴の振り返りや家族からの情報提供を得るなども行ない、利用者本位に検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴・病歴等を入居前の実態調査時及び日常の会話や家族の話しの中からこれまでの暮らし方等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック・睡眠時間等で毎日の健康状態を確認・観察している。日課が継続できているか確認しながら支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族の思い・意向を取り入れ、医療機関のアドバイスを活かしながら、定期的カンファレンスを行い現状に即した介護計画を作成している。	利用者や家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聴き取り、医師、歯科医師のアドバイスを活かし、関係する職員全員で意見交換を行ない、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に連動し、個別記録に記入している。又、気づきや日々の様子を記入し、職員間で共有し介護計画の見直しに活かしている。各職員の意識向上にもつながっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の体調変化・認知症状等を把握しその時々ニーズに合わせたサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	包括支援センター・ボランティア・友人等のかかわりを把握しながら、その方の力が発揮できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に利用者や家族の希望を尊重し、医療機関の選択をさせていただいている。協力機関の医師・看護師・歯科医師が月2回訪問診療を行い適切な医療を受けられるよう支援している。	入居時に利用者や家族の希望を尊重し、医療機関の選択をさせていただいている。専門医等かかりつけ医の受診は家族対応を基本としているが、必要な情報提供を行ない、適切な診療が行なわれるよう支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力機関の看護師が月2回訪問し、利用者の生活状況等を報告、気づいた事を相談し適切な受診や看護が受けられる体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報交換を行い、入院中の利用者の状態を把握し、話し合い・相談をする等し、関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・終末期についての話し合いを持ち、事業所でできる事を十分に説明し利用者・家族と意思統一を図っている。その後も話し合いを持ちながら、希望に沿ったより良いケアができるよう努めている。	入居時に重度化・終末期についての話し合いが持たれ、利用者・家族と意思統一を図られている。その後の対応も早い段階から話し合いを行ない、意志確認を進めながら、希望に沿った最大限のケアに向けた取り組みが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時の対応についての研修及び、消防署主催の救命講習に参加し、実践力が身に付くよう努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回定期的に消火・避難・通報訓練を行っている。地域の方にも訓練に参加してもらい、意見交換を行い協力体制を築いている。	避難・通報・初期消火などの訓練を定期的に行なっている。又、夜間の発生を想定しての訓練や地域住民との合同訓練も行なわれている。更に、震災時の教訓を活かし、声で災害発生を告げるのは無理があり、警笛使用に変更したり、職員の役割分担の再検討などの取り組みが行われている。	消防法に基づく、火災発生時の職員の役割分担は整備・検討はされているが、事業所特性を踏まえ、利用者の定時薬やケース記録など非常持出品についての役割分担なども明確にすることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴時の羞恥心に配慮した対応を行っている。利用者の人格を尊重した対応、個人情報の取り扱いには注意を払っているが、利用者間で不適切な発語がある時は厳しい言葉になる事もある。	利用者の人格を尊重した対応と個人情報の責任ある取り扱い、排泄や入浴時の羞恥心に対する配慮などきめ細かな対応がとられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類の選択・日中の過ごし方等、本人の希望が表出できるよう環境づくりを行っている。表出が難しい利用者には声かけを多くしできる限り思いにそよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムを保つ為最小限の日課は設定しているが、以外は一人ひとりのペースに合わせ、その人らしく生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に応じ訪問理容の利用や馴染みの美容院に行く等身だしなみの支援をしている。毎日の化粧を欠かさない利用者もいる。又、衣服が季節・時間に合わない時は、場に合った選択ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の力に合わせ、テーブル拭き・盛り付け・後片付けを職員と共に行っている。系列会社からメニュー通りの食材が届くので食事内容の選択は限られてしまうが、栄養士と定期的に意見交換を行い利用者の意向を取り入れている。	利用者個々の力に合わせ、食事の準備・盛り付け、後片付けなど職員と共に行っている。又、メニューについても利用者の希望を取り入れるほか、玄関前広場でのいも煮会や全フロア合同食事会、同一法人事業所との合同食事会など、趣向を凝らした支援をされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの疾病や状態に応じ、食事内容・形態・量等を考慮し支援している。水分摂取量が少ない利用者には、好みの飲み物を準備する・ストローを使用する等工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師・衛生士の指示・アドバイスを受けながら、一人ひとりの口腔状態・本人の力に応じた口腔ケアを毎食後行っている。義歯の方には、義歯洗浄剤を使用し清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターン・習慣を把握し適宜声かけを行っている。できる限り綿パンツを使用し皮膚トラブルの軽減・排泄の自立にむけた支援を行っている。	一人ひとりの力や排泄パターン・習慣を把握して、適宜、声かけを行い、トイレでの排泄や自立にむけた支援が行われている。利用者個々に自然な対応を心がけ、綿パンツを使用し、通常生活にもどられた方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の摂取量を個々に記録し形態・補水方法を工夫し、毎日の体操・生活リハビリを通し運動を取り入れている。又、医師に相談し必要に応じ内服薬の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は設定されているが、湯船に浸かる時間等できる限り一人ひとりの好みに合わせている。季節湯(ゆず湯等)・入浴剤で入浴を楽しむ事ができるようにしている。	入浴時間は設定されているが、できる範囲で利用者の希望に沿い、好きな時間に入浴されるよう取り組まれている。ゆず湯・しょうぶ湯など季節湯も楽しまれている。又、安全面でも個浴を基本とし、常に目を離さぬよう職員への指導が徹底されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのの体調・生活習慣に応じ、日中の休息時間を設けている。昼夜逆転しないよう休息時間を考慮し夜間安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の個別ファイルがあり、職員は利用者一人ひとりの薬の内容等について勉強をし支援している。又、服薬ミスがないよう何重にもチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのの生活歴・得意な事・できる事を活かし役割を決め分担・協力して行っている。又、好みに合わせたレクリエーションを取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩や庭での外気浴等日常的に行っている。他、季節に合わせて初詣・花見等外出している。又、家族の協力を得、友人との食事会・美容室への外出等支援している。	日課の散歩のほか、ベランダや玄関前広場での外気浴など日常的に外出支援されている。又、家族の協力を得て、季節ごとのお花見や外食、買物など利用者の希望を尊重した取り組みも行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる利用者は限られてしまうが、一人ひとりの希望に応じ生活に必要な物・嗜好品の買物を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けて欲しいと要望がある時は応じ、本人に取り継いでいる。電話での声が聴きとりにくいと手紙で家族とやり取りを行っている方もいる。又、友人と文通をしている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった飾りを利用者と共に作り装飾している。季節に応じ、光・温度に配慮しフロアのテーブル等の配置替えやカーテンで調整をしている。又、思い出の写真や観葉植物等を飾り、明るく清潔感のある共用空間作りを心掛けている。	利用者にとって不快や混乱を起さぬよう、室温・音・光などきめ細かな配慮がとられている。又、手づくりの貼り絵、思い出の写真、ご近所からのプレゼントの絵や季節の花が飾られるなど、季節感ある飾付けと明るく清潔感のある共用空間づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの生活スタイルを考慮し、テーブルの配置・席等利用者の性格・相性・活動の内容に応じ、居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や本人の希望がある毎に相談し居室内の家具類の配置・使い慣れた馴染みの物・家族の写真・仏壇等を持ち込み、居心地良く生活できるよう環境を整えている。	使い慣れた馴染みのタンスやテレビ、好みの人形・ぬいぐるみなどが持ち込まれているほか、家族の写真や仏壇なども持ち込まれ、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫をされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日付・トイレの場所等、大きな字でわかりやすいよう掲示。又、一人ひとりの動線を考慮し妨げになる物を整理し、安全に生活できるよう工夫している。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホーム さつき

作成日: 平成 24年 1月 12日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の内容は目的に沿ったものになっているが、会議開催回数は諸般の事情で未達成となっている。	運営推進会議を省令基準(2ヶ月に1回以上)開催し、そこでの意見をサービス向上に活かす。	運営推進会議を省令基準(2ヶ月に1回以上)開催し、事業所からの報告、参加者からの意見・提案をいただく。	12ヶ月
2	35	災害発生時の職員の役割分担は整備・検討されているが、事業所特性を踏まえ、利用者の定時薬やケース記録などの非常持出品についての役割分担なども明確にする必要がある。	災害発生時の職員の役割分担を整備・検討及び、事業所特性を踏まえ、利用者の定時薬やケース記録など非常持出品についての役割分担を明確にし、地域との協力体制を築く。	災害発生時、事業所特性を踏まえ、利用者の定時薬やケース記録などの非常持出品についての役割分担などを明確にし整備する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。